

感謝

2022年 3月 31日

会長 兼 CEO



本日をもって、私はシャープ株式会社の CEO を退任します。これまで、私を全力で支えてくださった全ての社員の皆さんに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

1. 感謝

CEO 退任の日を迎え、私は今、シャープの社長就任当時に抱いていた思い、「老驥伏櫪、志在千里（老驥^{ろうき}伏櫪^{れきふ}に伏すも志千里^{こころざしせんり}に在り^あ）」という中国の言葉を思い出しています。これは、「年老いた名馬は馬屋に繋がれても、なお千里を走る志を抱いている」という意味です。

私は、1976年に、台湾での2年間の兵役を終え、大同グループに入社し、その10年後、1986年に鴻海精密工業に入社しました。当時の鴻海はまだ社員数300人程度の会社でしたが、今では100万人を超える規模にまで成長を遂げており、私はその一翼を担ってきました。そして、2016年に鴻海がシャープへの出資を決定しましたが、この時、私は既に65歳を迎え、社会人として40年、鴻海でも30年が経過しており、十分に社会に貢献し、自らの社会人人生をやり切ったという思いでいました。

しかしながら、前回のメッセージでお話しした通り、私は、テリーさんの「義」を背負うことを決心し、もう一度自らを奮い立たせ千里を走る、即ち、全身全霊を賭してシャープ再建に取り組むという高い志と強い責任感を持って、日本に来ました。

その後、鴻海とシャープが出資契約を締結した4月2日以降、当時の幹部と何度もMTG を重ね、私なりにシャープの課題を分析し、今後のビジョンや進むべき方向性、さらにはその実現に向けた戦略や施策をまとめた経営基本方針を策定しました。

そして、8月13日、夏季休暇初日にシャープの社長に就任し、休暇最終日の21日に当時の幹部の前で経営基本方針を発表、翌22日には最初の社長メッセージを発信しました

この中で、私は、シャープの社長として、短期的には、「一日も早く黒字化を実現するとともに、シャープを確かな成長軌道へと導き、売上・利益を飛躍的に拡大していくこと」を、中期的には、「次期社長となる経営人材を育成するとともに、積極果敢にチャレンジする企業文化を創造すること」を使命に掲げ、自ら先頭に立ってシャープの経営再建に全力を尽くすことを、社員の皆さんと約束しました。2016年11月に発表したコーポレート宣言“Be Original.”には、シャープ再建に向けた、こうした私の思いも込められています。

あれから約6年、全社一丸となって経営改善に取り組んだ結果、シャープの経営は抜本的に改善され、過去に例を見ないスピードで東証一部復帰を果たし、その後も、米中貿易摩擦、新型コロナウイルスによるロックダウンや人々の価値観の大きな変化、半導体不足、原材料価格の高騰、物流の混乱、ロシアによるウクライナ侵攻など、想定を超える環境変化が何度も起こる中でも、安定的に黒字経営を続けることができています。

このように、私が自らの使命を最後までやり遂げることができたのは、社員の皆さんが懸命に知恵を絞り、努力し続けてくれたお陰です。改めまして、全ての社員の皆さんに感謝申し上げます。

2. 次期 CEO

明日より、呉常務が CEO としてシャープの舵取りを担うこととなりますが、私は、若い次世代のリーダーに後を託すことができ、非常に嬉しく思っています。

呉常務は、2001年に鴻海精密工業に入社して以降、20年以上、私と仕事をしてきた方で、鴻海時代には、米国、欧州、中国における事業開拓にも一緒に取り組んできました。そして、2012年に堺ディスプレイプロダクト (SDP) の経営に携わり、2017年にタイの販売会社 STCL の社長を務めてからは、ASEAN 事業や米州事業、海外テレビ事業等、シャープブランドのグローバル拡大をリードしてきました。

私は予めより、次期 CEO には次の5つの能力を求めると話をしてきましたが、呉常務はいずれの能力もしっかりと兼ね備えた人材であり、私は必ずや、シャープを輝けるグローバルブランドへと導いてくれると信じています。

- ① 激しい環境変化に機敏に対応できること
- ② リーダーシップを持つこと
- ③ 将来のシャープの主力となる事業の経験を持ち合わせていること
- ④ ステークホルダーからの信頼が得られること
- ⑤ グローバル経営に長けていること

しかしながら、彼は40代半ばと非常に若く、経営者としての経験はまだまだこれからです。ですから、私自身も後1年、シャープの経営に携わり、新 CEO を全面的にバックアップしていく考えです。

3. SDP の子会社復帰

前回のメッセージ(2月18日)で、SDP の子会社復帰の方針についてお話ししましたが、その後、現株主との協議を経て、3月4日に、株式交換による株式取得契約を締結しました。

ご存知の通り、SDP は元々、シャープの重要な子会社の一つでしたが、シャープの経営危機によって、2012年に経営権を手放すこととなりました。これは、家族に例えると、父親の家業が上手くいかず、子供の一人を養子に出さざるを得なくなった状態です。そして、もし、父親や残った兄弟の力で家業が回復した時、養子に出した子が困っていたら、父親は、例え他の兄弟や周囲からどれだけ強い反対があろうとも、養子に出した子を取り戻し、助けてあげたいと思うものであり、これが親心です。

今回の SDP の子会社復帰には、私個人としてはこうした親心、即ち、シャープとしての「義」を大切にしたいという強い思いがありました。勿論、テレビ事業のグローバル拡大やディスプレイデバイス事業の強化に繋がることは確信しており、今後、SDP と共に一日も早く具体的成果に繋げ、シャープの信頼をより一層高めていていただきたいと思います。

4. 最後に

先程もお話した通り、本日をもって私は CEO を退任し、明日以降は次期経営陣の指導とサポートに専念します。ですから、私のメッセージも今回が最後となりますが、これまでの計51回のメッセージには、私の長年の経験をベースとした企業経営の基礎となる考え方や心構えをしたためていきますので、方針を策定する際や課題に直面した時など、節目節目で読み返していただければと思います。

最後になりましたが、明日からはいよいよ、新体制がスタートします。呉 CEO の強力なリーダーシップの下、より一層結束を強め、さらなる業績向上を果たし、「強いブランド企業 “SHARP”」を早期に確立していってくださることを期待しています。

改めまして、6年間、本当にありがとうございました。

以上